

【企業訪問】オーシャンネットワークエクスプレス（ONE）

講師：マネージャー コーポレート戦略及びサステナビリティ・コーポレート
コミュニケーション 三方 若葉 氏
シニアエグゼクティブ コーポレート戦略及びサステナビリティ・
グリーン戦略チーム 関口 芭奈 氏

- 2月13日（木曜日） 【学校交流】テマセク・ポリテクニク
【視察】アワ・タンピネス・ハブ（行政施設、公共施設、商業施設、スポーツ・
レジャー施設等が一体となった複合施設）
- 2月14日（金曜日） 【学校交流】ニールン・ポリテクニク
【ホームステイ】
- 2月15日（土曜日） 【ホームステイ】
- 2月16日（日曜日） 【視察】マリーナバレー、中華街、マライオン公園、リトルインディア、
アラブストリート
【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画
（アクション・プラン）の作成）
- 2月17日（月曜日） 【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画発表
チャンギ国際空港より出発
- 2月18日（火曜日） 羽田空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（事前学習）

 ◆ASEAN加盟の歴史 ASEANについて知ろう！ 日系企業：14,500社以上	
2024年8月27日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」	2024年8月27日【講義】 集合写真
 持続可能な輸送システムへのアクセスの提供 コミュニティバス「めぐりん」の運行 車体が低くのりやすい構造、低料金で駅などを短時間で結ぶ ラストワンマイルの交通 車体が低くのりやすい構造、低料金で駅などを短時間で結ぶ	
2024年12月6日【講義】テーマ関連講義 「東京都台東区浅草のまちづくりについて」	2024年12月6日【講義】 集合写真



2025 年 1 月 28 日【参加者説明会】



2025 年 1 月 28 日【参加者説明会】
日本の魅力紹介 プレゼンテーション練習の様子

派遣プログラム



2025 年 2 月 11 日
羽田空港より出発



2025 年 2 月 12 日【表敬訪問】
在シンガポール日本国大使館



2025 年 2 月 12 日【表敬訪問】
シンガポール国立青少年評議会（NYC）



2025 年 2 月 12 日【企業訪問】
オーシャン ネットワーク エクスプレス（ONE）



2025 年 2 月 13 日【学校交流】
テマセク・ポリテクニク



2025 年 2 月 13 日【視察】
アワ・タンピネス・ハブガイドツアー



2025 年 2 月 14 日【学校交流】
ニーアン・ポリテクニク



2025 年 2 月 15 日【ホームステイ】



2025 年 2 月 16 日【視察】マリーナバラージ



2025 年 2 月 16 日【視察】チャイナタウン



2025 年 2 月 16 日【視察】マーライオン公園



2025 年 2 月 16 日【視察】アラブストリート



2025 年 2 月 16 日【視察】リトルインディア



2025 年 2 月 16 日【ワークショップ】



2025 年 2 月 17 日【報告会】



2025 年 2 月 17 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

プレプログラム（事前学習）

◆ 高校生

まちづくりについて、札幌以外の自治体がどのような取り組みを行っているのか、今まで聞く機会は殆どなく、浅草の良さ、また日本が取り組んでいることなどを知ることができ良い機会になりました。講義を聞いて、改めて札幌の良さにも気づくことができました。また、交流校で実施することになるプレゼンテーションについて、どうすれば伝わりやすいスライドが作れるかについても学ぶことができ良かったです。シンガポールのプログラムでも生かしていきたいです。ありがとうございました。

◆ 高校生

浅草の歴史や現在起きている問題について、実際にまちづくりを行っている人から話を聞くことができ楽しかったです。東京と札幌では全然違うものだと思っていたけれど、共通点も多くありました。また、シンガポールで日本の紹介をする際、どんなことに注目するとよいか教えてもらい（例：人口や特徴、どんな歴史があってどのように街が作られたのか、今起きている問題や課題）とても良い機会になりました。また、海外の人にプレゼンテーションをするとき、UD（ユニバーサルデザイン）フォントを使ったり、科学的に見やすい色の配置やマークを使う等で、より伝わりやすくなるということも教えていただき参考になりました。今回教えていただいたことを活かしていきたいです。

派遣プログラム

◆ 高校生

学校訪問やホームステイ、また街を歩いている時も笑顔で「日本人？」と話しかけてくれた方がいて、人と人との関わりの大切さや温かさに感動しました。まだ私の英語力は低く、現地の人とコミュニケーションを取れるか心配でしたが、言葉がうまく伝わらなくても、ジェスチャーや表情で読み取ることができました。シンガポールは多民族国家なので英語のアクセントにそれぞれ癖があって面白かったです。よく「実際にやってみないと分からない」と言われていますが、今回のプログラムを通してその意味がよく分かりました。学校の勉強に限らず、このプログラムのような人と関わり、学びを自分から深める総合的な勉強も頑張りたいです。貴重な 1 週間を過ごすことができました。

◆ 高校生

テマセク・ポリテクニク、ニース・ポリテクニクで交流できたことが一番良かったです。現地の学生が沢山参加してくれたので、今までで 1 番充実した交流ができました。学校のいろんなところに連れてってもらい、とても楽しかったです。

◆ **高校生**

ホームステイで、現地の人の生活を実際に体験できたのがとても良かったです。

◆ **高校生**

学校交流が 1 番良かったと感じています。国籍が違う同年代の生徒とディスカッション等ができて大変貴重な時間になりました。

◆ **引率者（教員）**

2 度あった学校交流がとても印象に残っています。やはり、生徒が同年代の異国の生徒と交流したり、ディスカッションしたりしたことが、生徒にとってとても刺激あるものになったと思います。短時間の交流でしたが、交流先の生徒達が最後の空港に見送りに来てくれたことが本当に嬉しく思いました。

4. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **視察先関係者**

地理的に離れていることもあり、普段日本の皆さんに弊社のことを知っていただく機会が少ないため、弊社にとっても今回のご訪問は大変貴重な機会でした。高校生の率直で前向きな反応は、社員自身も自社理解を深めるきっかけとなりました。海外を拠点とする日本人の一員として、今後も機会があれば高校生等の視察を受け入れ、世界に羽ばたくきっかけづくりの一助となれたらと思います。

◆ **交流校教員**

シンガポールの学生と日本の学生が、言葉の壁を乗り越えて、たった一日でとても簡単に仲良くなり、良い友達になったことは印象的でした。日本語を学んでいる学生の中には、日本語で会話することに自信が持てるようになった人もいました。私たちは将来、日本の学生と同じような交流をもっと持てたらと強く願っています。

◆ **交流校教員**

校内の研究センター訪問中、日本の学生たちはとても注意深く、熱心に取り組んでいました。日本人とシンガポール人の学生の交流がすぐに深まり、有意義な会話が生まれました。スタッフと学生の両方で温かい友情が生まれました。日本文化グループの学生たちは、日本文化への理解を深め、日本語のスキルを磨く機会を喜んでいました。

◆ **ホストファミリー**

私は 1989 年から約 30 年間、SSEAYP、岩手県、JENESYS などのホームステイを受け入れてきましたので、多くの経験があります。私と妻は、学生たちが私たちとのホームステイを楽しんでくれることが一番嬉しいです。家庭料理を食べたり、シンガポールの文化を学んだり、環境や観光地について学んだりすることができます。ホームステイが一泊では足りないので、次回は二泊で泊まりにしてください。

◆ **ホストファミリー**

シンガポールのすばらしさを若者たちに紹介できることを嬉しく思いました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等 派遣プログラム

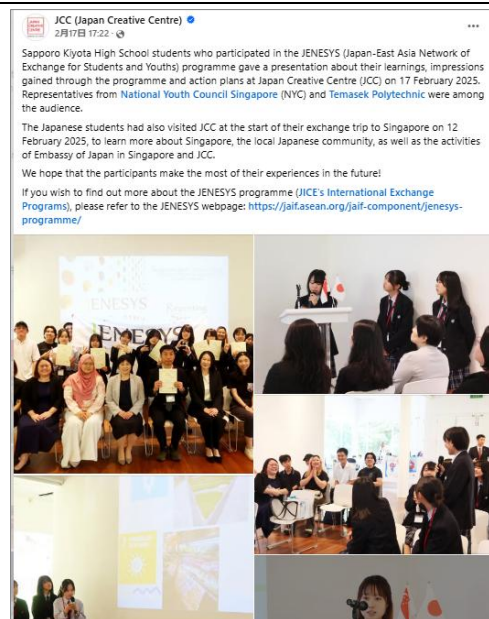
 高野のプログラムは訪問先がシンガポールとシンガポール、日本の経済関係などについてのお話を聞かせていただきました。シンガポールのこれからの課題として水資源が挙げられました。現在、シンガポールの水はマレーシアに頼っていますが、2060年までという期限があるため、どうサバイバルしていくか重要になってくるということが分かりました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。 Like exchange @jccsingapore 4月19日 高野 真	 （右）訪問先、National Youth Councilに訪問させていただいた際に撮影した写真。壁には多くのポスターが掲示されており、右側には「Marketing for Good」や「CIRCLE OF PRACTICE」などのポスターが見えます。 高野のプログラムは訪問先がシンガポールとシンガポール、日本の経済関係などについてのお話を聞かせていただきました。シンガポールのこれからの課題として水資源が挙げられました。現在、シンガポールの水はマレーシアに頼っていますが、2060年までという期限があるため、どうサバイバルしていくか重要になってくるということが分かりました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。 Like exchange @jccsingapore 4月19日 高野 真
2025 年 2 月 12 日 (Instagram) 最初のプログラムは JCC 訪問でした。日本とシンガポールの経済関係などについてのお話を聞かせていただきました。シンガポールのこれからの課題として水資源が挙げられました。現在、シンガポールの水はマレーシアに頼っていますが、2060年までという期限があるため、どうサバイバルしていくか重要になってくるということが分かりました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。	2025 年 2 月 12 日 (Instagram) National Youth Council(NYC)に訪問させていただきました。NYC の活動内容、施設概要についての説明を聞き、NYC の事を深く知ることができました。説明をしていただいた後、ザ・レッド・ボックスの中を短い時間ではありましたが、見学させていただきました。これまでの活動が壁に展示されていて、コロナ禍でのボランティア活動・ボランティアされた方のインタビューなど具体的に行ってきた活動が視覚的に分かり、私たちが今何をしなければならないのか、またボランティアをするとどんな影響があるのかを考えることができました。これからもボランティア活動を積極的に続けていくということなので、定期的にInstagramやホームページをチェックさせていただきます。貴重な時間をありがとうございました。
 （左）訪問先、Ocean Network Express(ONE)という海運会社の船客の写真を撮りました。写真の奥には「ONE」の大きな看板が見えます。 高野のプログラムは訪問先がシンガポールとシンガポール、日本の経済関係などについてのお話を聞かせていただきました。シンガポールのこれからの課題として水資源が挙げられました。現在、シンガポールの水はマレーシアに頼っていますが、2060年までという期限があるため、どうサバイバルしていくか重要になってくるということが分かりました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。 Like exchange @jccsingapore 4月19日 高野 真	 （右）訪問先、Temasek Polytechnic (テマセクポリテクニク)の展示。壁には「GREENBOX x TP」と「Reduce Reuse Recycle」の文字が見えます。 高野のプログラムは訪問先がシンガポールとシンガポール、日本の経済関係などについてのお話を聞かせていただきました。シンガポールのこれからの課題として水資源が挙げられました。現在、シンガポールの水はマレーシアに頼っていますが、2060年までという期限があるため、どうサバイバルしていくか重要になってくるということが分かりました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。 Like exchange @jccsingapore 4月19日 高野 真
2025 年 2 月 12 日 (Instagram) オーシャン ネットワーク エクスプレスという海	2025 年 2 月 13 日 (Instagram) 本日はテマセク・ポリテクニクを訪問しました。

上輸送の会社に訪問しました。日本の輸送の 99% が海上輸送であり、私たちの生活のほとんどのものがお世話になっていることを知りました。

このような社会インフラを担っている日本の輸送会社の方々とお話をする機会を頂けて、様々な知識を得ることができ良い経験になりました。

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

ポリテクニクは日本の高校と同じような学校です。この学校では持続可能性を大切にしています。土を使わずに繰り返し使える素材で植物を育てたり、発酵させたみかんの皮を利用して作られた液体で校内の掃除を行ったり、使用済みの油を集め、きれいにして再利用するなど、学校生活に身近なところで様々な環境保全活動が行われていました。ランチやティーブレイクを通して、現地の学生と楽しく交流を深めることができました。



2025 年 2 月 17 日（北海道札幌市立札幌清田高等学校の HP）

JENESYS 対日理解促進プログラム（シンガポール）の 4 日目は、ニーアン・ポリテクニクという学校で同年代の現地の生徒と交流をしたりキャンパスツアーをしました。

5 日目は、ホームステイをして、中華系やマレー系、インド系等の日常生活を経験することができました。

6 日目は、マリーナバレーダム（シンガポールの貴重な水資源に関して学びました）やマーライオン公園、アラブストリート、リトルインディアを訪れました。

最終日は日本大使館で報告会がありました。シンガポールで肌で感じたこと、学んだこと、帰国してからのアクション・プランなど報告しました。

2025 年 2 月 17 日（Japan Creative Centre（JCC）の Facebook）

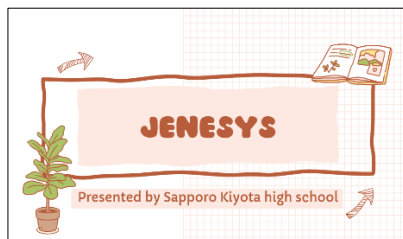
JENESYS プログラムに参加した札幌清田高校の生徒たちが、Japan Creative Centre（JCC）にて、プログラムを通じて得た学びや印象、そして今後のアクション・プランについて発表を行いました。会場には、シンガポール国立青少年評議会（NYC）やマセク・ポリテクニクの代表者も参加しました。

また、日本の生徒たちは、シンガポールでの交流プログラムの開始にあたり、2025 年 2 月 12 日に JCC を訪問し、シンガポールや現地の日本人コミュニティ、そして在シンガポール日本国大使館や JCC の活動について学びました。

参加者の皆さんが、今回の経験を今後活かしていくことを願っています。

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 1 グループが発表



Action Plan2

Why → To encourage ourselves to deepen our understandings of SDGs to search what we can do about SDGs

When → periodically

Who → Program members

To Whom → People in the world

What → What we saw and felt

How → Our Instagram account

【成果の発表】

◆ 渡航全般の学び：

シンガポールは多民族・多言語・他宗教国家であるとは聞いていましたが、実際にリトルインディア、チャイナタウン、アラブストリートを訪問し、それぞれの地域には全く違った人種の人達が集まり、全く違った文化を持っていることが分かりました。

◆ SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくり」についての学び：

シンガポールでは緑豊かな環境と産業振興の中心地が融合した魅力あるまちづくりを実践していることが分かりました。

【アクション・プラン】

1. グループ全員で、2025 年 3 月までに、身近な人たちに SDG を通した日本とシンガポールの魅力について知ってもらうため、全校生徒を対象として、現地で見たことや感じた事を発表します。
2. メンバー全員が定期的に SDGs のためにできることを考え、SDGs への理解を深め、現地で見て感じた日本とシンガポールの違いを、SDGs の観点から SNS（Instagram アカウント作成）を通じて世界の人々に発信します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）